

## 世界危機に対応する IMF: 低所得国のニーズに応える

世界金融危機は、過去6ヶ月の間に先進国から途上国へと波及しました。これを受け IMF は、低所得国 (LICs) 向けの政策を刷新、新たに設立した信用枠に支えられた多額の新規財源に関する発表を行うに至りました。多方面に渡るこのような努力の結果、自身が原因でないにもかかわらず金融危機の打撃を受け、その影響を克服しようと懸命に努めている加盟国と IMF の新たな関係が始まりました。この度の IMF のイニシアチブは、LIC 諸国との緊密な協議を反映しており、また、G20 各国首脳・大臣による途上国のニーズへの早急な政策対応の要請に応えたものとなっています。以上のような改革努力により、LIC 諸国向けの資金の大幅な拡充、IMF 融資制度の見直し並びに融資のコンディショナリティーの簡素化、さらに低所得国向けの IMF の譲許的融資に関しては、2011 年までゼロ金利とする、といったことが実現しました。

先進国に端を発した世界金融危機は、まず新興市場国に波及し、そして危機の**第三の波**が、多くの LICs が過去 10 年で成し遂げた目覚ましい経済的実績を脅かしています。IMF が今年初頭に公表した危機の LICs への影響に関する報告書は、2007 年の食糧・燃料価格の高騰並びにこの度の金融危機により、国際社会は巨大な資金ニーズに対応しなければならない状況が生まれた、と警告しています。IMF は現在、何百万という人々が貧困に押し戻されることを防ぐため、支援を行っています。

低所得国向けの譲許的融資の大幅な拡充は **IMF の対応**の根幹を成しており、この一年の間にはこれまでのレベルの 4 倍の規模に達しました。サブサハラ・アフリカに対する IMF の新規融資として合意された額は、2008 年には年間で 11 億ドルだったのに対し、2009 年は 1 月から 7 月中旬までの間に既に 27 億ドルに達しています。

以上のような取り組みを背景に、IMF は以下の更なるイニシアチブを発表しました。

- IMF は 2014 年までに約 170 億が必要と考えられる LICs 向け**譲許的財源を拡充**することに合意しました。2009 年及び 10 年の融資は最大で 80 億ドルに達する見込みですが、これは今後 2 年から 3 年に渡り 60 億ドル規模の新規融資を求めた G20 の要請を上回ります。なお、新たな財源には、想定される IMF の金の売却による収益も含まれます。
- 低所得国は、2011 年まで IMF の譲許的融資に伴った**全ての利払いの特別救済**を受けます。
- 今後の IMF の金融支援は、2011 年以降の金利に関しては調整メカニズムを活用しながら、譲許的性質を恒久的に高めるとする点が特徴として挙げられます。

- また IMF 加盟国は、2,500 億ドル相当の特別引出権 (SDRs) の配分を承認しました。これは加盟国のクォータ (出資割当額) に応じて全加盟国に配分されます。これにより 180 億ドル以上に相当する SDR が LICs に配分されることになり、各国の外貨準備の積み増しに寄与すると共に、各国の厳しい資金調達事情を改善するものと期待されます。
- IMF は**新たな譲許的融資制度の枠組み**を導入しました。新たな融資制度はより柔軟で、ますます多様化する LICs により適したものとなります。新たな制度は以下の通りとなっています：柔軟で中期的支援を提供する**拡大クレジット・ファシリティ**、短期的もしくは予防的ニーズに対応する**スタンドバイ・クレジット・ファシリティ**、限定的コンディショナリティーの下で緊急支援を行う**ラピッド・クレジット・ファシリティ**。これらの制度は新規の**貧困削減・成長トラスト**の枠組みに含まれます。
- この新たな枠組みは LIC を対象とした**借入限度**の改革を伴ったもので、危機に起因する金融ニーズの解決の一助となると期待されます。概して、これらの改革は年間の平均利用限度の倍増を意味し、他の IMF 加盟国の利用限度を拡大するとした決定に合致しています。
- IMF プログラムのコンディショナリティー**は簡素化され、中枢となる目標に焦点を絞ったものとなりました。特に構造改革に関する条件要項が柔軟になっており、各国は構造改革が期日までに完了しなくとも、ウェーバーを求められることがなくなりました。
- この新たな LIC 向け融資制度の枠組みは、貧困の軽減と成長を特に重視しており、各プログラムには、社会及びその他優先事項に対する支出を保護するとして特定の目標が含まれることとなります。
- 拡大された IMF の金融支援は、大半の LICs においてこれまで以上に高いレベルでの**貧困層向け支出**を含んだプログラムを伴っています。IMF のプログラムは食糧・燃料そして世界金融危機に伴う課題を解決するため、財政赤字の拡大や支出の増加などに対し緩和的となっています。また、最近のプログラムでは、より緩やかな金融政策とこれまでと比較し高いインフレ目標を含むことも多々あります。

これら施策を取り入れることにより、IMF は低所得国との関係において新たな段階に入ると共に、世界危機への対応のあり方を巡る国際的合意を反映した取り組みをおこなっています。2009 年 3 月、タンザニアのジョカヤ・キクウェテ大統領、ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、並びに前国連事務総長のコフィー・アナン氏は、ダルエスサラームにて、既述の問題に関する会議を開催しました。IMF は同会議において、IMF のアフリカへの支援の拡大に向け、融資をより多く提供し、柔軟性を高め、政策対

話を強化すると共に、IMF内でのアフリカの代表権を強化すると公約しました。ストロスカーン氏は2009年4月のロンドン・サミットにおいてこれらの公約を提唱、ドナー各国に対し、IMFの譲許的融資の大幅な拡充の実現を促進するよう要請しました。